

平成29年度

県立中央高等学校自己評価表

No. 1

目指す 学校像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の進学校として、地域住民や中学校から信頼される学校（きめ細かな学習指導・進路指導を行い、生徒の希望進路の実現を図る。）</li> <li>・自律ある行動ができる生徒の育成に努め、明るい学校（生活の基礎である基本的な生活習慣を身に付けさせる。）</li> <li>・心のふれあいを大切にできる学校（魅力ある特別活動と部活動の推進を図る。）</li> </ul>				
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標	達成状況	
○成果 ・進路実績 国立大学合格 4名 私立大学合格 91名(延数) 短期大学合格 16名 専修学校合格 85名 公務員試験合格 6名 就職内定 100%達成 ・部活動実績(関東大会出場以上) ・第11回全国高校生短歌大会(短歌甲子園2016)出場 ・第20回スターリングテクノラリーマイクロクラス優勝、準優勝、冷凍機クラス3位 ・第19回技術想像の世界「エネルギー利用」技術作品コンテスト特許庁長官賞&一般社会人日本機械学会会長賞 ・落ち着いた学校生活ときちんとした身だしなみやあいさつ ○課題 ・家庭学習の定着を図る方策 ・明確な進路目標を設定させる方策 ・自ら進んでマナーやルールを守る意識の喚起	1 学力の向上と主体的な学習の育成を目指した授業の展開	(1) わかる授業の展開及び生徒の進路希望に沿う学力向上を目指し、指導を工夫する。 (2) 公開研究授業による指導技術の向上を図る。 (3) シラバスの有効活用に努める。 (4) 家庭学習の習慣化を図る。	B		
	2 進路指導における中央メソッドの具体的運用と充実(国公立大合格10名、私大合格100名以上、就職内定100%)	(1) 課外指導の計画的実施及び受講生徒数の増加を図る。 (2) キャリア教育の充実を図り、個々の生徒により高い進路目標を設定する。 (3) 進学を意識した進路指導を実施する。 (4) インターンシップ、大学見学会や面接指導等を充実する。 (5) 進路ガイダンス、各種調査、模擬試験等を計画的に実施する。	B		
	3 HR活動や学校行事、部活動への自主的な参加促進及び結果の広報	(1) 企画・運営を生徒中心にするなど、生徒の自主性を尊重した学校行事の運営を図る。 (2) 部活動の充実・強化を目指す。	A		
	4 生徒一人一人の自律を促す段階的指導の充実による規範意識の高揚	(1) 頭髪・服装・挨拶・言葉遣いなども含めた基本的生活習慣の確立・定着を図る。 (2) 毎日の授業への心構えと安全・安心な生活環境の充実を図る。 (3) 生徒理解を深めるために教育相談等の有効活用を図る。 (4) いじめの未然防止、早期発見、早期解消に努める。	A		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	達成状況及び次年度(学期)への主な課題	
教 語	・基礎学力の向上	・漢字や單元ごとの小テストを実施し、基礎学力の定着を図る。 ・週末課題の設定など家庭学習の定着を図るための工夫をする。 ・自ら学ぶ力の養成を目指し、積極的に辞書を活用させる。	a a b	A	・各学年毎に朝の小テストを通して、漢字や語彙の学習を継続的に行った。学年と連携し、校内行事毎に作文、レポートを毎回行った。
	・読書指導の推進と記述力の向上	・長期休業中の課題などの読書指導により多くの本に親しませる。 ・読書感想文や各種論文のコンクールに作品を応募させたり、各種校内行事のレポートを作成させたりする。	a b c		
	・評価の工夫と改善	・シラバスを工夫し、適正で実効力のある評価をする。	a	A	
科 地 歴 公 民	・基礎学力の定着及び応用的な学力の育成	・課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な授業方法の研究と実践を通して学習者の能動的な授業参加を図る。 ・大学進学を目標にしている生徒を中心とした課題授業を充実し各科目偏差値50以上3割以上を目標とする。成績不振者に対して補講や追試を通じて学習習慣の確立を図る。	a b	B	・課外等を継続的に行い基礎学力の向上を図ったが成果は十分ではない。 ・ALの更なる導入による深い学びが必要。
	・評価の工夫と改善	・観点別評価の工夫と研究を図る。	b		

※評価基準      A：十分達成できている      B：達成できている      C：概ね達成できている      D：不十分である      E：できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	達成状況及び次年度(学期)への主な課題		
教 育 科	数	・生徒の実態・能力に応じた授業を展開する。 ・生徒の進路希望に応じて積極的に課外授業を展開する。	a a b	A	・授業や課外だけでなく生徒の進路希望に応じて教科全体で協力し、基礎学力の定着を図った。今後は模試で成果を出せるような工夫が必要。 ・教検の実施時期と回数が課題。	
	学	・基礎学力の向上	・確認テストや発問を多くし、基礎学力の定着を図る。 ・数学技能検定を年2回以上行い、多くの合格者を出すように努める。	a a		A
		・家庭学習時間の確保	・宿題や週末課題を出して家庭学習の状況や理解度を確認する。 ・長期休業での課題を通し、安定した学力を維持する。	a b		B
	理 科	・評価の工夫と改善	・定期試験、宿題、長期休業課題、授業態度等を適切に判断して評価を行う。	a		A
		・多角的な授業の展開	・授業での生徒実験、演示実験の機会を増やす。 ・ICTを活用して授業を行う。	b b		B
		・進学希望者への対応	・校外授業や放課後等の課外実験など、多様な学習形態を試みる。 ・博物館からの資料など、多様な教材を利用して授業を行う。	b a		A
			・学年主体の課外の他に、個別で生徒対応の指導を行う。 ・生徒の進路希望や興味関心に応じた科目選択を用意し、少人数授業を実施する。	a a		
	保 健 体 育	・評価の工夫と改善	・観点別評価を生かした授業評価法の改善を検討する。	a		A
		・運動の楽しさの体験と生涯スポーツへの継続	・選択制の授業形態の充実により、様々な種目選択を可能にし積極的な活動を促進する。 ・自己や周囲の健康、安全に配慮し、技能や体力の向上に努める。	a a		A
		・運動をとおした体力の向上	・体ほぐし、体作りの運動を取り入れ、筋力や持久力、柔軟性といった基礎体力を高める授業内容を実施する。	a		A
・自己の体力の向上		・観点別評価を導入し、意欲、興味関心、技能などの面から評価を行う。 ・体力テストの結果により、自己の体力の特性を理解し、自ら改善の運動処方に取り組む姿勢を育てる。	a a	A		
		・健康と安全についての総合的理解、健康の保持増進	・視聴覚教材を有効に利用し、具体的な情報を得ながら、興味・関心を持たせるよう工夫する。 ・健康診断や身体測定の結果等から自分の健康状態を把握させ、健康処方を作成する。	b b	B	
芸 術		・＜音楽＞創造的で柔軟な発想力及び健全な芸術的判断力の養成	・コーラスや楽器による豊かな表現などを学び、音楽的な感性を磨く。 ・小アンサンブルによる活動に関心を持たせ、声部の役割と全体の響きとの関わりを理解し、積極的に取り組む。	b a	A	
	・＜美術＞基礎的な技術する心情や豊かな感性の育成	・素描や塑像などの基礎的な課題から創作技術の向上を図る。 ・絵画、彫刻、混合技法などの創作活動を通して芸術と生活の関連性を理解し、芸術を愛する心情を養う。	b a	B		

※評価基準 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	達成状況及び次年度(学期)への主な課題		
教 語	・基礎学力の向上 ・家庭学習習慣の定着 ・実践的英語力の向上	・各課ごとにノートや課題の提出を通して基本事項の定着を図る。また、小テスト等を実施し、理解の状態を把握して、不十分な生徒に対しては、個別指導を実施する。 ・学習習慣の定着のために家庭学習用の課題を与え、定期的な点検し、評価を加える。 ・1年生特進クラスは全員英検を受験させる。合格対策として課外での事前指導や、二次受験者に対する指導に力を入れる。	a b b	A B B	・新学習指導要領を見据えた授業力向上のための教科内授業参観等の実践により一定の成果を上げることができた。 ・センター試験の英語成績提供システムに関して、外部試験の導入について検討が必要である。	
	・新学習指導要領に基づく授業の実践 ・評価の工夫と改善	・2、3年生についても、英検の受験を奨励し、合格のための支援を実施する。 ・生徒の実態に合わせた指導法を考え実践し、授業内容を検討し改善に努める。 ・考査・課題・授業態度や問題演習への取り組みなどを総合的に判断し、評価する。	a a	A A		
	科 庭	・生活を創造する力の育成 ・基礎技術を実践的態度の育成 ・評価方法の改善を図る	・意見発表の機会を増やし、自主的活動の時間を多くとることにより、生活に対する自分の考えを確立できるよう促す。 ・実習・実験のあり方を見直し、効果的に活用する。また、ホームプロジェクトや学校家庭クラブ活動を通してより主体的な実践活動に取り組む。 ・実習・実験時の活動の評価について観点別評価を取り入れた評価表を工夫し、活用する。	a a b		A A B
情 報		・情報社会に参加する態度の育成 ・情報活用能力の育成 ・評価の工夫と改善	・コンピュータや情報通信ネットワークなどの活用を通して、情報を適切に収集・処理・発信できるようにする。 ・プレゼンテーション能力の向上を図るため、生徒発表会等を実施する。 ・観点別評価を生かした授業評価法の改善を検討する。	b b a	B B A	
		教 務	・授業時間の確保 ・わかる授業の展開	・チャイム始業・チャイム終業の徹底を図る。 ・公開授業等の相互研修の機会を増やし、教科指導法の工夫と研究を行い、授業の質的向上を図る。	b b	B B
・学力の向上を目指した指導の工夫	・生徒による授業評価を実施し、指導力向上の参考とする。 ・アクティブラーニング校内研修を実施し、教員全体の指導力向上を図る。 ・成績不振者の指導と成績中位・上位者への学習意欲のなお一層の喚起を図るため、教科・学年・校務分掌間の連携を図り、学力の向上に努める。		b b	B B		
・シラバスの活用と評価 ・家庭学習の習慣化	・シラバスに沿った計画的な進捗と達成状況を確認し、積極的に観点別評価に生かす。 ・生徒の家庭学習時間を確保するために指導法を工夫し、課題(宿題)等を計画的に与えて、家庭学習の習慣化を促す。		b b	B B		
・特色ある教育活動の充実	・海外の学校との交流、中国上海・韓国での語学研修、スポーツ科学コースにおける大学との連携授業など、特色ある教育活動を充実する。		b	B		
・教育活動の広報と生徒募集の推進	・広報誌やホームページ等を活用し、本校の教育活動の広報に更に努める。 ・効果的な学校説明会・学校訪問等を企画し、平成30年度入試の生徒募集に努める。		a a	A A		
・年間行事計画の充実	・教員・生徒が高い目的意識を持って学校生活に取り組みめるよう、年間行事の充実並びに円滑な実施のために校務分掌間の調整を行う。 ・魅力ある学校行事を取り入れ、学校を活性化する。		a b	A A		
・LHR、授業等での活用に応える図書室の充実 ・生徒の図書館利用の活性化	・関連教科の担当者に利用を呼びかけ、対応した関連展示コーナーを作成する。 ・生徒・職員の図書購入希望調査を年2回以上行い、図書・資料の充実を図る。 ・読書の推進を図るため、「図書だより」を年間8回以上発行する。 ・図書委員による昼休みの貸し出し業務を円滑に行う。		a b b a	A A B A		

※評価基準 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	達成状況及び次年度(学期)への主な課題
教務	・図書委員の自主的積極的活動の奨励	・図書委員が自主的に校外研修に参加することを奨励する。	a A	・行事の精選・見直しを行い、魅力ある学校行事を生徒の意見を取り入れながら更に工夫していきたい。 ・教員間の連携を更に強化し、多岐に渡る業務を効率よく進めることが課題である。
進路指導	・課外指導等の充実 ・インターンシップの充実と進路意識の高揚 ・進路指導内容の充実 ・中央メソッドの充実と発展 ・面談指導の充実 ・家庭、企業、大学との連携	・課外授業を充実し、学習習慣と学力の定着を図り、高い進路表現を目指す。 ・放課後の平常課外や土曜課外に積極的に参加する。 ・インターンシップを通して職業観の育成と自己の適性の確認を図る。 ・総合的学習の時間等を有効利用する。 ・校外模試を計画的に実施し、その結果を次の指導に活かす。 ・大学説明会や大学見学会へ積極的に参加させ、志望校決定など進路決定の一助とする。 ・進路ニュースを充実させ、精選した最新の進路情報を提供する。 ・中央メソッドを具体的に各学年で運用し、3カ年に渡る系統的かつ具体的な進路計画を策定する。 ・定期的な面談習慣だけでなく、生徒との個別面談の機会をできるだけ多く作り実施する。 ・保護者面談等の機会に、充実した進路情報を提供する。 ・大学進学率の向上を図るため、大学見学会を実施する。 ・出前授業、卒業生による講演会、進路ガイダンス等を実施し、進路情報の提供に努める。 ・企業訪問や職場見学会を実施する。	b B a A a A b B a B b A a A b A a A a A	・国公立大合格者は12名受験中1名であった。推薦入試であっても、英・数・理等の基礎学力不足が原因であり、来年へ向け早期の準備が必要である。 ・就職は好景気の状況下で11月までに就職希望者全員の内定を得た。公務員合格者総数は昨年と変わらないが、消防職に合格がでた。生徒の自発的進路実現の行動が必要だ。
生徒指導	・基本的生活習慣の確立と安全安心な教育環境の整備 ・ルールの主體的な遵守と公共のマナーや規範意識の向上 ・関係機関との連携を強化し、いじめの未然防止、早期発見及び早期解消を図る	・定期的に頭髪・服装検査を実施し、高校生として好ましい頭髪や制服の身だしなみを確認・指導する。特に男子生徒の長髪や一部の刈り上げ(ツープロック)等に注意を払う。 ・校内巡視を定期的に行い、安全・安心な教育環境の保全に努める。特に各学年の要望を聞き、おしゃべりや居眠り、携帯電話不正使用等の多いクラスを重点的に巡回する。 ・さわやかマナーアップキャンペーンにおいて、生徒会役員や各学年生活委員及び保護者、地域住民、関係機関等と連携・協力して地域ぐるみで生徒たちを見守る体制を構築する。 ・毎週火・木曜日8時10分～30分、羽鳥駅から学校までの通学路における登校指導を実施し、生徒指導全般(安全な自転車運転、身だしなみ、挨拶の励行)を確認・指導する。 ・担任による面談指導を通して、マナーやルールを主體的に遵守できる精神の向上を図り、保護者との連絡を密にして、学校と家庭が一体となった円滑な生徒指導を行う。 ・全校生徒を対象に講演会(交通安全教室、薬物乱用防止教室、携帯電話安全教室、制服着こなし教室)を実施することにより、マナーやモラルなど規範意識の向上を図る。 ・情報モラル教育を推進する。 ・いじめを早期発見するため、年3回いじめに関するアンケート調査を実施する。 ・インターネットを通じて行われるいじめに対する対応を迅速に行う。 ・警察、児童相談所、法務局等の関係機関との連携を図る。 ・事例研究を通して、いじめの対応方法について共通理解を図る。	a A b A a A a A b A a A a B a B b B b B a B	・校舎内での身だしなみや授業態度等、昨年度より良くなっている。 ・継続して自転車通学者のマナー向上及び道交法遵守の徹底をしていく。 ・各担任と家庭との連絡は密に行われ、保護者とのトラブルもなく連携協力ができた。 ・情報モラル教育を推進しているが、SNSによる特別指導が増えている。 ・いじめに関するアンケート調査の定期的な実施をしていく。

※評価基準 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	達成状況及び次年度(学期)への主な課題	
保健指導	・充実した学校保健・安全計画の立案と実施	・各学年との連携強化を図る。(各学年会への積極的参加)	a	A	・健康診断のとき、廊下で騒がしくなってしまったので、改善したい。
	・健康診断並びに健康相談の円滑な実施	・消防計画の策定を行う。(消防署との連携)と防災訓練(地震・火災)の実施(年1回)	a		
	・校舎内外の環境点検・整備	・各学年との連携強化を図る。(各学年会への積極的参加)	b		
	・各種委員会の活性化	・施設・設備の安全点検の定期的な実施を行う。	a		
特別活動	・望ましい集団活動を通じて心身の調和のとれた発達と個性の伸長を目指す	・学校薬剤師との学校環境衛生検査の実施と、年間3回の大掃除を円滑に行う。	a	A	・文化祭の内容を更に充実させる。
	・部活動の活性化	・美化委員による校舎内外の美化活動を実施する。(外周清掃を年2回実施)、保健委員会で年2回保健だよりの発行)PTA環境整備委員会で年1回プランターへの植栽を行う。	a		
渉外	・各種行事への保護者の参加率向上	・生徒会との連携により、各学校行事の中に、美化委員会の役割や活動を計画する。	a	B	・PTA総会の出席率は変化がなく、研修旅行は希望者多数で好評のうちに開催できた。総会に進路等の行事を併催することを検討する。
	・広報活動の活性化	・気になる生徒の把握・理解と早期対応に向け、特別支援教育委員会との連携を図る。(年3回)	b		
一学年	・基本的生活習慣の確立	・クラスの団結を図るため、文化祭(校内祭)を実施する。	a	A	・段階的指導の有効な活用によって、生徒たちは落ち着いた学校生活を送ることができており、これを継続させたい。 ・情報モラルについての指導は、今後も継続していく必要がある。 ・学習面では、基礎学力の向上を更に図っていく必要がある。 ・全ての活動において、自主的・自発的な活動行動ができる生徒の育成が必要である。
	基礎学力の向上	・生徒の自主性を活かした野球応援を実施する。	a		
		・生徒の意欲を引き出すためにクラスマッチを実施する。	b		
	進路意識の高揚	・部活動の強化を図るため、中学校との連携を図る。	b		
		・部活動の様子や活躍をHP及び中央だよりに定期的に掲載し、PRを図る。	c		
		・PTA総会への出席率を上げるため、日程中の学年・学級懇談は学年毎にどちらかを選択する形を継続し、出席者の拘束時間の短縮を図る。	b		
		・参加意欲を喚起するPTA研修旅行を企画する。	a		
		・PTA会報「もにたあ」を9月下旬と2月下旬の年2回発行する。	a		
		・中央高校生としてふさわしい挨拶・言葉遣い・服装髪型ができるよう指導を徹底する。	a		
		・面談を重視し、生徒の長所や個性を把握し悩みや問題を早期に解決するように努める。	a		
・段階的指導を有効に展開し、落ち着いた生活環境づくりに努める。		a			
・情報教育、情報モラル教育を徹底し、情報社会に的確に判断できるよう指導を徹底する。	b				
・わかる授業、知的好奇心を喚起する授業を展開し大学入試に対処できる学力づくりに努める。	b				
・英国教の朝ドリルを実施し基礎学力の定着を図る。	a				
・英語の基礎力養成を図る。1月の英検(第3回)3級・準2級合格率30%以上を目指す。	b				
・講演・講話の機会に記録・感想を書かせ、記述力の向上を図る。	a				
・平日の放課後(週3回)、土曜日、長期休業日等に課外指導を実施する。	a				
・成績不振者への指導を徹底する。	b				
・校外模試の数値目標 各科目平均偏差値45以上、平均偏差値50以上を15名、国語は25名以上、数学は15名以上、英語は10名以上を目標として指導する。	b				
・進路意識を高めるために進路講演会や出前授業を開催する。	a				
・キャリア教育の一環としてオープンキャンパス参加の促進と「職業インタビュー」を実施する。	a				
・特別活動への積極的な参加	・積極的に部活動への参加を促す。ON-OFFの切り替えの重要性を認識する。	b			
・保護者(家庭)との連携	・保護者面談を充実させ保護者との意思疎通を図ると共に、情報の提供に努める。	a			

※評価基準 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	達成状況及び次年度(学期)への主な課題	
二 学 年	・基本的生活習慣の確立	・中央高校生としてふさわしい挨拶・言葉遣い・服装頭髪ができるよう指導を徹底する。	b	A B A A A A	・進路実現に向けて、挨拶・言葉遣い・服装等をより洗練したものにする。 ・家庭学習時間を増やす(少なくとも、現在より1時間以上)。
	・基礎学力の向上	・面談を重視し、生徒の長所や個性を掌握し悩みや問題を早期に解決するよう努める。 ・英語の基礎力養成を図る。実用英語検定の合格者数を指標とし、3級・準2級・2級合格率70%以上を目指す。 ・家庭学習時間の全体平均1時間以上、特進クラス平均3時間以上を目標とし、実現するための課題や学習計画指導の工夫をする。	a b		
	・進路指導の充実	・進研模試の国数英総合偏差値(全国)50以上を10名以上、各科目の偏差値(全国)50以上を、国語は30名以上、数学は20名以上、英語は5名以上を目標をして指導する。 ・小論文指導の充実を図る。	b a		
	・特別活動への積極的な参加	・従来が進路講演会や出前授業などの進路行事に加え、進路別LHRや総合学習の時間を有効に活用することで、進路意識を高める。	a		
	・充実した修学旅行の実施	・生徒各自の進路目標を確定させ、個別に努力目標を設定させる。 ・オープンキャンパスや公開授業等へ積極的に参加させる。	a a		
	・保護者(家庭)との連携	・中核学年としての役割を自覚させ、部活動や行事等に積極的に参加させる。 ・総合学習やLHRを利用したガイダンスを行うことで、充実した事前学習・平和学習や体験学習・事後学習を実施する。	a a		
		・保護者面談を充実させ、保護者との意思疎通を図ると共に、進学保護者会等を実施し、情報の提供に努める。	a		
三 学 年	・生活指導の充実	・社会で通用する常識や基本的生活習慣を身に付けられるよう指導を徹底する。	a	A B B A A	・段階的指導や面談の活用によって、生徒たちは落ち着いた学校生活を送ることができていた。 ・進路実現を目標に進路指導を行ってきたが、国公立大の合格は現在1名と厳しい状況である。就職内定に関しては、100%を達成することができた。 ・進学に関して、推薦入学で合格した生徒の課外出席率に課題がある。
	・キャリア教育の充実	・面談を重視し、生徒の長所や個性を掌握し、悩みや問題を早期に解決するよう努める。 ・進路別LHRを積極的に活用し、生徒それぞれの進路希望に応じた指導を実践する。 ・進路指導部との連携を図り、生徒全員の進路希望を実現する。 ①国公立大学10名以上、大学・短大進学者数90名以上合格を目指す。 中堅私立大学合格者10名以上、県内私立大学の一般試験合格者10名以上を目指す。 ②各種専門学校や医療看護系専門学校合格・就職内定の100%を目指す。	a a a b		
	・学力の向上	・合格に結びつく面接指導、小論文指導を行う。 ・家庭学習時間の全体平均1時間以上、特進クラス平均4時間以上を目標とし、実現するための課題や学習計画指導の工夫をする。	a a		
	・特別活動の充実	・平常課外や土曜課外、夏期・冬期休業中の課外への積極的な参加を促すと共に、最後まで受講する指導を徹底する。部活動終了後の課外参加率90%以上を目標とする。	b		
	・保護者との連携	・目標値を設定したり、テスト後の解説を徹底し、模擬テストを有効に活用する。 ・大学入試に対応した授業、課外を展開する。	b a		
		・部活動や学校行事に積極的に参加させ、充実感・達成感を実感させる。	a		
		・大学進学希望保護者説明会を実施し、保護者との連携を図る。	a		

※評価基準 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない